



日本での日々体験記



国 籍	カンボジア
職 種	耕種農業
実習実施者	興和農園
監 理 団 体	阿蘇農業協同組合

ネアン テット
NEANG TITH

私は希望と不安のなか、2017年7月3日に日本へ到着しました。道路や建物が整然としてゴミなど見当たらず、清々しく感じました。

生活していく中で生まれ育った国と違い、四季がはっきりしていて、春夏秋冬に気温の変化があります。桜からひまわり、紅葉から白い雪と風景が美しく流れて行くのです。

また、田畑も良く管理されているように見えました。

実習ではトマトの育て方や病気について教わりました。農家の皆さんは産物を一定時間までにJA集荷所へ運び、それをまとめて九州の各方面市場へ出荷となるのです。協同組合は農家にとって生産から出荷の段階で、幅広い手助けになると感じました。

市場ではセリがあり品物が良いほど値段が高いのです。新鮮なものがより早く、より衛生的に店頭に出るの、日本の生鮮食品販売のしくみと知りました。

休日は時折、観光地や温泉を訪れます。九州はいたる所に温泉があり、日本人々はリラックスしゆったりと楽しんでいます。本当に日頃の疲れに気持ち良く、明日への活力がわく

ように感じます。

また、特別な思い出は、小中学校の意見発表大会に出場したことです。あまり自信はなかったのですが、お父さんから青年代表にと依頼があり、何事も経験と思い出場することにしました。生徒達の前で、今までの生い立ちや今後について、真心を込めて語ることができました。審査員の先生方や生徒達から、大きな拍手を頂いたことは今でも私のはげみとなっています。

今、私は20才ですが、思ってもいない出来事がありました。町での成人式に参加の機会を得たのです。同い年の皆さんから、成人の決意を感じました。また女性の着物は、まぶしいくらい美しく見えました。日本の青年と一緒に集い、祝っていただいたことは貴重な思い出となりました。

日本への仕事のチャレンジは3回目にて、お父さんに見い出され念願がかないました。心がけとして、初心の気持ちを忘れず、朝のスタートのあいさつから元気よく、皆となごやかに仕事にはげみたいと思っています。

この国で働きたかった理由の一つに、双子の姉の大学学費を支援するためということがあります。姉の夢は、私の夢でもあるからです。

日頃の実習の中で、日本の先進的技術を目で見、肌で感じて知識を深めたいものです。そして帰国後、様々な体験を取り入れ、生活の向上に役立てていきたいと思っています。更に、地域の発展に少しでも貢献できればと願っています。